

第一編
明治前期

第一章 県行政区画

一 神奈川県足柄両県の成立と再編成(二一四)

(一)

元年三月十九日

横浜裁判所ヲ置キ尋テ之ヲ神奈川県ト為ス

東久世前少将へ達 法令全書

東久世前少将

兵庫裁判所総督被免横浜裁判所総督被仰付候事

○横浜裁判所ヲ置クノ令他ニ見ル所ナシ姑ク之ヲ存ス

同人へ達 全上

東久世中将

是迄之職務被免神奈川県知事被仰付候事

○神奈川県ヲ置クノ令他ニ見ル所ナシ姑ク之ヲ存ス

元年九月廿一日

神奈川県ヲ廢シ県ト為ス

神奈川県へ達 行政官

今般其府ヲ県ト被改候旨被仰出候事 誌

神奈川県へ達

以来府号被廢可改県旨被仰出候事 元年十月二日鎮日

○九月廿一日寺島宗則ヲ以テ神奈川県知事ト為ス辞令書ハ官規任

免ニ在リ

○復古記云本条達書進退録并寺島宗則履歴書二十九日トス然レ

トモ府ヲ県ニ改ムルノ令本日 九月廿一日ニ在リ同日発セシコト疑

ナシニ書恐クハ誤レリ

元年六月廿九日

蕪山県ヲ置ク 史要(注)

(太政類典「第一編第六二卷」)

(注)「明治史要」。東久世の着任前後の動向については「慶応四戊辰日

録」(神奈川県史資料編近代・現代(5) 涉外)所収)参照。

(二)

九月

府県廢置ノ議ヲ定ム

大蔵省伺

従前ノ諸県被廢今般更ニ七十三県被置候ニ付テハ別紙ノ通御布告
相成可然存候依之御布告按相添此段相伺申候也 九月二日 大蔵

(別紙)

御布告案

在来ノ諸県総テ被廢候事 九月

元諸県へ達按

在来ノ諸県被廢候ニ付テハ今般別紙ノ通更ニ県ヲ被置候間得其意管
轉イタシ来候地処当未年ヨリ物成郷村等其県々へ引渡可申事 九月大藏

(中略)

伊豆国一田島々共

相模国

足柄下郡
高座郡
愛甲郡
津久井郡

足柄上郡
大住郡
海綾郡

小田原県

相模国

三浦郡
橘樹郡
久良岐郡

鎌倉郡
都筑郡

神奈川県

(後略)

十一月十四日 四年

布告

今般閏八州群馬県ヲ除クノ外并ニ伊豆国従来ノ府県被廢更ニ左ノ通

府県被置候事 誌

足柄上郡
足柄下郡
高座郡
大住郡

相模国 足柄上郡 足柄下郡 高座郡 大住郡

伊豆国一田

愛甲郡 海綾郡 津久井郡

神奈川県

相模国

三浦郡 鎌倉郡

武蔵国

橘樹郡 久良岐郡 都筑郡

(後略)

〔太政類典〕第二編第九五卷

十一月 四年

(三)

東京府へ達

武蔵国多摩郡ノ内右其府管轄被仰付置候処御詮議ノ次第有之神奈川
県管轄被仰付候条当未年ヨリ地所物成郷村等同県へ可引渡事

入間県へ達

武蔵国多摩郡ノ内右其県管轄被仰付置候処御詮議ノ次第有之神奈川
県管轄被仰付候条当未年ヨリ地所物成郷村等可引渡事 十一月足柄上郡
入間郡 御達欠

大藏省伺

別紙神奈川県ヨリ外国人十里部内遊歩等ノ儀ニ付相伺候趣勘考致
シ候処事情不得止儀モ可有之候間武蔵国多摩郡相模国高座郡ノ分

神奈川県へ改メ管轄被仰付候様仕度依之別紙御布告按並神奈川県
申立書相添此段奉伺候也 十一月二十日
伺ノ通夫々相達候事

(別紙)

御布告案

神奈川県

武蔵国 多摩郡

相模国 高座郡

右ノ通今般更ニ其県管轄被 仰付候ニ付東京府入間県足柄県ヨリ
地所物成郷村等当末年ヨリ受取可申右請取候上高反別一村限り高
調大蔵省へ可差出事

神奈川県伺 大蔵省宛

今般関八州群馬県ヲ除之外并伊豆国從來ノ府県被廢更ニ当県ヲ被
置候ニ付従前管轄ノ県々ヨリ物成郷村等当末年ヨリ請取可申武蔵
国橘樹久良岐都筑三郡相模国三浦鎌倉両郡ハ当県管轄其余在来管
轄ノ内武蔵国多摩郡相模国高座愛甲大住津久井四郡ハ足柄県其外
へ可引渡旨御沙汰ノ趣承知仕候然ル処当県管轄十里部内ノ儀ハ外
国人遊歩ノ地ニテ夫々御取締向モ有之候ニ付見込ノ趣左ニ申上候

神奈川県

一 高拾四万石余

武蔵国

橘樹郡都筑
那久良岐郡

外高老万石余

社寺土地ノ分

相模国

三浦郡
鎌倉郡

是ハ今般更ニ管轄被仰付候分

一 高四万二千石余

武蔵蔵 多摩郡

一 高四万六千石余

相模国 高座郡

是ハ在来当県管轄ノ処今般足柄県等ノ管轄被仰渡候処十里部
内別而外国人遊歩繁キ場所ニ付従前ノ通当県管下御据置ノ儀
相伺候分

一 高五万三千石余

相模国 大住郡

一 高七千石余

愛甲郡

一 高老万千石余

津久井郡

是ハ在来当県管轄ノ処今般被仰渡ノ趣ヲ以足柄県へ郷村物成
引渡可申分

右当県ノ儀ハ外県々ト違ヒ十里部内外国人遊歩ノ地ニテ開港場県
庁ニ於テ管轄不仕候テハ彼我取締不都合ノ儀モ有之既ニ御一新後
管轄相成其以來外国人諸用往復ハ不及申遊歩等ノ節々取締向等小
前百姓末々迄心得違無之様追々厚申論瑣末ノ事件ニテモ直ニ処置
イタシ官員於テモ交際上ノ儀厚心得罷在粗取締モ相立候儀ニ有之
旧幕ノ節ハ鎌倉鶴岡武州井土ヶ谷村其外数度ノ殺傷等有之候処御
新政以來先ツハ事変モ無之右ハ御交際上ニオヒテ一廉ノ御都合ニ

有之且此上追々開化進歩外国人皇國一円徘徊御差許ノ際ニ至候節ハ御処置ノ品モ可有之方今ニテハ最前ノ条約面ヲ押ヘ十里部内ノ外ハ遊歩御差許無之儀ニテ尤他ノ管轄ニ相成候トモ御取締筋ハ夫々御達可相成儀ニハ可有之候ヘトモ何等急事變有之候節ニ至村民共其管轄庁へ訴出候上其事柄ニ寄正院又ハ外務省へ申立或ハ当県へ掛合有之候様ノ手續ニテハ彼是差跨時日相延可申都テ外国人接対向ノ儀ハ迅速ヲ旨トイタシ不申候トハ主客地ヲ替候様ノ儀間々有之候処他ノ管轄ニテハ平素外国人取扱向モ自今不事馴ヨリ前後反対イタシ終ニハ皇國ノ御政体ニモ関リ不容易儀出来申間敷モ難計且又其ガタメ村民モ及困却候儀無之共難申ト被存併從來ノ府県被廢更ニ府県ヲ被置候モ夫々御主意有之候儀ト奉存候又他県迫邦ノ村落迄ヲ敢テ当県ニテ管轄致シ候様仕度ト申上候儀ニハ無之夫是実地ニ寄再応思惟仕候処在来管轄武州多摩郡八王子宿并同郡原町田村近傍ハ日毎不絶外国人所用并遊歩等イタシ相州高座郡ノ儀モ右八王子等へノ往返其他相模川縁イヅレモ遊歩繁キ場所ニ付一躰ノ位地取調候処六郷川已西相模川已東北ハ甲州道中小仏峠ヲ限リ別紙^(注)鹿絵図面ノ場所ハ従前ノ通当県管轄ニ被仰渡只々境界判然イタシ外国人遊歩其外等ノ御取締モ相立可申其余同郡大住愛甲津久井三郡ハ遊歩モ邂逅ノ場所ニ付足柄県管轄ニ被仰渡可然哉ニ奉

存候依之鹿絵図相添見込ノ趣相伺申候以上

十一月十六日
日絵図閣

〔太政類典〕第二編第九五卷

(注) 別紙略。

(四)

八月十九日 〔五年〕

(中略)

神奈川県へ達

其県管下武蔵国多摩郡ノ内中野村外三十一箇村別紙絵図面ノ通今般東京府へ管轄替被仰付候条地所引渡可申事

別紙略之

大蔵省伺

神奈川県管下武蔵国多摩郡中野村外三十一ヶ村ノ儀ハ東京府管内在
原豊島両郡ノ間ニ孕リ候地形ニ付同府取締向ハ勿論下民ノ苦情モ不
少趣ヲ以テ管轄替ノ儀伺出候ニ付神奈川県見込ヲモ相糺候処同県ニ
オイテハ二十六ヶ村限り其余上高井戸外五ヶ村東京府へ組込候テハ
不便ノ趣双方ノ見込相違ニ付猶篤ト取調熟考致候処右六ヶ村ノ儀モ
神奈川県トハ路程モ相隔リ上下往復ノ不便有之東京府へ相付候方上
下ノ便利ト被存候ニ付同府へ管轄替被仰付候方可然存候依之府県へ
ノ御達按并書類絵図面共相添此段相同伺申候也 八月十七日大蔵

伺之通相達候事 八月十九日

(中 略)

租税寮ヨリ掛合 神奈川県宛

其県管轄武州多摩郡中野村外三拾老ケ村ノ儀ハ荏原豊島両郡ノ間ニ孕リ東京府所轄ニ相成候ハ、取締向ハ勿論諸事并利宜敷候間管轄替被仰付候様同府ヨリ申出候ヘ共其県於テ実地ノ便不便等見込ノ趣至急可被申出事 七月大藏

神奈川県回答 租税寮宛

当県管下武州多摩郡中野村外三拾老ケ村ノ儀荏原豊島両郡ノ間ニ孕リ東京府所轄相成候ハ、取締向ハ勿論諸事并利宜候間管轄替被仰付候様同府ヨリ申立候ニ付当県ニ於テ実地ノ便不便等見込ノ趣至急可申立旨御達ニ付取調候処

武州多摩郡	中野村	本郷村	同新田
雑色村	和田村	堀ノ内村	和泉村
永福寺村	成宗村	田端村	下萩窪村
上萩窪村	新井村	下沼袋村	上沼袋村
高円寺村	馬橋村	阿佐ヶ谷村	天沼村
上高田村	江古田村	片山村	下鷺宮村
上鷺宮村	下井草村	上井草村	

ノ式拾六カ村

前書式拾六箇村ハ管轄替被仰付候方便利ノ村々ニ付同府申立ノ通御沙汰相成可然奉存候依之鹿絵図相添此段申上候以上 七月廿一日 閣

(大政類典「第二編九五卷」)

二 事務章程制定に関する神奈川県権令大江

卓の論告

告神奈川県各官書

卓嘗テ府県□状ヲ察スルニ其制甚タ広ク其事極メテ多シ蓋シ事務ニ大小難易ノ別アリト雖トモ其実諸省ノ事務ヲ兼摂スルモノニ似タリ而シテ本県ノ如キハ内外人民輻湊ノ衢ニ当リ事務ノ繁多ナルコト諸ノ能ク髣髴スル所ニアラス故ニ其事或ハ県治条例ニ因リ難キモノアリ此ニ於テ事務ヲ分課スルノ方法別ニ之ヲ設立セサルヲ得スト雖トモ県治条例□□テ別ニ一県ノ法制ヲ設立スヘカラサルハ地方官ノ權限ニシテ固ヨリ論ヲ待タス但県治条例之書タルヤ其大綱ヲ挙ルモノニシテ實際事務ノ節目ヲ分チ其施為ノ順序ヲ定ムル等ニ至テハ未タ尽セリト云フ可カラス是ヲ以テ今新ニ此事務章程ヲ作り首ニ県治条例中ノ章程ヲ記シ其下別ニ各課ノ章程ヲ列シ加ルニ職制ト条規トヲ

以テ是則県治条例ノ文ヲ拡充スルモノニシテ別ニ一県ノ法制ヲ設立スルニアラス蓋シ職制以テ官員ノ權限ヲ定メ章程以テ分課ノ事務ヲ明ニシ条規以テ施為ノ法制ヲ定ムルナリ庶クハ在庁ノ諸官員能ク此旨ヲ体シ自今以往此章程ヲ遵守シ一層其職ニ尽力セラレンコトヲ抑事務ニ章程ヲ要スルヤ一課毎ニ井然トシテ不亂互ニ相侵踰スルコトナク事務ヲシテ弁済セシムルニアリ然レトモ彼此相關係シ心力ヲ合セテ其功ヲ成スハ之ヲ人身ニ譬フルニ四肢九竅百体ノ各異ナルアリテ脈絡貫通シ相須テ用ヲ為スカ如シ故ニ庁中各課ヲ分ツト雖トモ其事務ノ他課ニ関涉スルモノニ至テハ相共ニ論議ヲ尽シ他課タルヲ以テ置テ不問ニ付スルコトナク当否ヲ決定シ嫌疑ヲ去テ之ヲ担任シ卓ヲシテ罪ヲ上下ニ獲セシムルナカラシムコトヲ是卓ノ切ニ諸員ニ望ム所ナリ且事務施為ノ際ニ当テ諸員ノ尤モ注意セサルヘカラサルノ一事ナリ夫レ県庁百般ノ事務アリト雖トモ其要管下ノ人民ヲ保護シ專制束縛シテ其自由ノ權ヲ妨害スルコトナク以テ國家ノ公益ヲ計ルニアリ一事ヲ興シ一令ヲ下スモ常ニ此意ニ基カサレハ或ハ一時ノ舉ヲ快シテ百世ノ患ヲ遺シ或ハ姑息□仁ニ流レテ偏頗ニ事ヲ処シ或ハ斗筭ノ利ヲ規リテ衆人ノ怨ヲ釀シ或ハ政府ノ權ヲ挾ンテ庶民ノ權ヲ奪フ其甚シキニ至テハ官拳ニ屬スルモノヲ以テ民務ト為シ私事ニ屬スルモノヲ以テ公務ト為シ遂ニ上下ノ權義ヲ誤リ民心ノ方向ヲ失セ

シム夫是ノ如クンハ朝廷ノ委託ニ辜負シテ下百姓ヲシテ文明ノ沢ヲ蒙ムラサラシムルニ至ル豈畏レサル可ケンヤ諸員宜シク常ニ之ヲ熟慮シ職々兢兢ヤ所務ノ本末ヲ明ニシ施設ノ順序ヲ考ヘ人民ヲシテ益開明ノ域ニ進歩セシメ県内ヲシテ靜謐ニ歸セシメンコトヲ實ニ県官ノ日夜反省力行セサルヘカラサルモノナリ抑又政治ノ得失時勢ノ沿革等凡テ事跡ノ後來ニ伝ヘテ龜鑑トナスヘキモノハ其書類ヲ編纂シテ散佚錯亂セシメサルニアルハ素ヨリ論ヲ竣タサル所ナレトモ太政權新以來法制ノ變更スルニ隨ヒ藩県廢置各局離合ノ際記録ヲ分合スル等ノ事數次ニ及ヒ且事務多般ニシテ末々書類ヲ整理シ記録ヲ編輯スルノ暇アルコトナシ是所謂一大闕典ニシテ卓ノ尤モ憂ル所ナリ今ヤ事務章程ニ從ヒ記録ノ編輯ノ規則ヲ定メ一ハ既往ニ溯リ一ハ現今ヨリ將來ニ接シ以テ本県ノ伝記ヲ編輯セントス此舉ヤ一難事ノ如シトイヘトモ其効ヲ成スニ至ツテハ事務施為ノ際旧例ヲ搜索シ前規ニ比較シ沿革ヲ察シ証左ヲ徵スル等一目瞭然トシテ従前搜閱ノ為ニ時間ヲ費シ多少ノ凝滞ヲナスカ如キノ弊ナク其便捷ナルコト推テ知ル可シ故ニ又諸員ノ奮勵シテ此ニ從事セントトヲ要ス若シ煩雜ヲ厭ヒ汗漫ニ付スルカ如キコトアラハ卓決シテ之ヲ仮借スル能ワス諸官員其之ヲ忽ニスルコト勿レ但此職制ナリ章程ナリ條例ナリ末之レヲ詳悉具備スルモノト云フ可カラス故ニ時ニ當リ規ヲ改メ事ニ触レ製ヲ革

ムル等ハ便宜ニ從ヒ之ヲ議定ス可シ諸官員其之レヲ察知セヨ
明治六年八月

神奈川県権令

大江 卓

(神奈川県布達)

三 管内区戸長にたいする神奈川県令中嶋信

行の諭告

第二百十三号

諭告管内各区区長戸長書

夫レ政府ハ人民ノ政府ニシテ人民ノ為メニ便利ヲ図リ之ヲ保全スル
素ヨリ論ヲ待タサルナリ人民既ニ政府ノ保護ヲ恃メハ政府ニ対シ相
当ノ義務ヲ尽スモ亦報応ノ道当ニ然ルヘキ所ニシテ其相待テ以テ國
家ヲ維持スル腹心手足ノ相依テ一軀タルカ如シ是ヲ以テ政府人民其
間決シテ離隔スヘカラス苟モ離隔スレハ上ノ下ヲ待チ下ノ上ニ対ス
ル事皆乖戾シ政府ハ煩勞ニ堪ヘスシテ人民ハ紛擾ニ苦ミ事務凝滞シ
テ國家ノ衰弊殆ト將ニ是ヨリ起ラントス故ニ政府ノ法令ヲ出シ法規
ヲ設ルヤ必ス人民ノ便不便ヲ熟察シテ而後之ヲ施行セズンバアラス
人民ニ於テモ政府ノ意ヲ体シ法令法規ヲ服膺シテ敢テ違犯セス各其

務ムヘキヲ務メ竭スコト乃チ人民ノ義務タリ今ヤ人民ノ義務ニ於ル
往々相悖ル者ナントセス夫レ地券ヲ受ル者ハ必ス地租ヲ納ルコト曩
ニ條例ノ頒布アリ且券面之ヲ明載スル者猶其意ヲ得スシテ緩慢ニ付
スルカ如キ是其一時ニシテ其弊タル毎事悉ク然ラサルナシ若シ法令
条規ノ果シテ大ニ不便ナルカ其故ヲ詳陳シ更ニ方案ヲ具シテ改新ヲ
請フヘシ然ルニ其事ノ得失利病ヲ論セス一事輒チ數回ノ督責ヲ煩サ
、ルナキヲ以テ布令頻煩ナラサルヲ得ス事務叢脞ナラサルヲ得ス町
村吏ノ員増置セサルヲ得ス而シテ其諸費ハ即チ之ヲ人民ニ賦課スレ
ハ現今民費ノ日ニ多キヲ加ルハ殆ト人民ノ自カラ其義務ヲ惰リテ已
カ膏血ヲ損耗スルナリ夫レ然リ政府法令条規ヲ発シテ人民ノ便利ヲ
図ルモ人民ニ在テハ未タ其実惠ニ浴ハス苟モ然ラズンハ地方ノ事務
必然省約シ従前三日ノ一日ニ弁スヘク三人ノ務一人ニシテ足リ民費
ノ賦課モ蓋亦三分ノ二ヲ減スヘシ是豈人民ノ一大至便ナラスヤ抑人
民ノ便ハ即チ政府ノ利ニシテ政府ノ利不利ハ國家安危ノ関スル所ナ
レハ凡ソ保護ノ下ニ在ル者固ヨリ恬然傍觀シテ之ヲ度外ニ置ク能ハ
サル者アリ是則政府人民ト相待テ相際離スルヲ得サル所以ナリ然リ
而シテ政府人民ノ間一致親睦其便益ヲ謀ルノ方法ニ至ツテハ只広ク
會議ヲ起シ輿論公議ヲ取ルノ外決シテ他ニ在ルヘカラス依之從今以
來追順条規ヲ設ケ管内各区ニ議會ヲ開キ毎町村ノ代議人ヲ公選シ民

政民事ノ要件ヲ議定セシメ余モ亦時ニ臨テ其情意ヲ通暢シ相共ニ裨益ヲ謀ラント欲ス実ニ如此ナレハ則政府ノ本分ト人民ノ義務ト両ナカラ徹底シテ余蘊ナク県治民情相背馳セスシテ国家開明ノ盛治ヲ贊助スヘキニ庶幾カラン乎ト云爾

明治七年七月廿二日

神奈川県令

中島信行

(神奈川県布達)

四 地方長官會議に臨む足柄県權令 柏木忠俊

等の諭告

本年九月十日ヲ期シ各府県ノ長官ヲ釐下ニ召集シ大政維新ノ初神明ニ対シ新誓アラセラレシ旨意ニ基カセラレ漸次ニ之レヲ拡充シ人民ノ代議人ヲ召集シ公議輿論ヲ採リ上下協和民情暢達ノ路ヲ開キ全国人民ヲシテ各其ノ業ニ安シ国家ニ報スヘキ義務ヲ知ラシメラレタキ聖意ニテ先ツ地方ノ長官ヲ人民ノ代議トシテ協同公議スヘキ旨下命アレハ智識淺陋某等ノ如キモ亦タ此会場ニ昇リ肝胆ヲ披キ所見ヲ陳述セサルヲ得ス然レトモ本県ノ如キ区々小県ト雖モ所轄相豆二州ニ跨リ山ヲ負ヒ海ニ瀕シ綿亘数十里ニ下ラス各地ノ景状人情ノ厚薄

ニ因リ實際ノ施設ニ於テ便不便利病得失ノ差違ナキコトヲ保ツ能ハス故ニ能ク此ノ情実ヲ熟得明弁スルニ非サレハ何ヲ以テ一般人民ノ代議トナリ

朝旨ノ嚮フ所ロラ奉シ下情ヲ暢達シ隆渥ノ

聖意ニ対揚スルコトヲ得ンヤ本県ニテモ所在ニ會議所ヲ開設シ条規ニ仮定セシ如ク正副区戸長并ニ重立タル者ハ各区村駅ト代議人タル責ヲ担任ス固ヨリ言ヲ待ス故ニ敢テ請フ各区村駅ト休戚ヲ俱ニシ国家ニ報スヘキ義務ヲ尽シ今一層奮發励精シ速カニ議會ヲ興シ是非得失ヲ詳論熟議シ大区會議ニ於テ毫モ忌憚ナク之ヲ申告シテ某等ノ不逮ヲ裨補センコトヲ切ニ期望スル所ナリ時宜ニヨリ垂問ノ為メ管下人民ヨリ両三名随行ヲ命スルコトモアル可シ預メ其意ヲ領得ス可シ但シ県下大区議會ノ開期ハ追テ報告スヘシ

明治七年八月

足柄県權令 柏木忠俊

足柄県權參事 城多 董

(甲第十二号明治九年編輯之區出入之部)湯河原町役場藏

五 足柄県官員錄ならびに同禄高(一)(二)

(一)

職員錄

第1章 県行政区画

少 属	十一等出仕	権大属	十等出仕	大 属	権典事	参 事	権 令
					本 県 詰		
	飯塚 冬胤	大庭 永章	鈴木 庄吉	宮本 重興	石原 重庸	楫取 素彦	柏木 忠俊
		関 重磨		古野 真興	平松 保雄		
		福住 英雄		吉田 政定			
			権少属				
		十四等出仕		十二等出仕			
仁科 信敬	橘川 武紹	青柳 政浮	伊藤 正誼	大趣 直温	林 盛安	寺内 定功	中村 綱亮
		水野 正連	榎山 金平	本庄 直養		佐々木安綱	北村 快藏
		関岡 尚志				西脇 時治	小川 清

十五等出仕

安原 光政

准仕丁

等外一等出仕

川添 久重

六等詠官

同 二等出仕

小牧 克房
長 知一

庶務 分課

同 三等出仕

山村 正心
渡辺 勝
小松 通時
古田 元詮
市川 英俊

使部

八坂 権六
平田 昭利
野村 武勇
小立 正孝

仕丁

獄司 囚獄掛

赤光 将英

市山 直員

岡野 正章

吉野 直興

関 重磨

小川 清

北村 快藏

寺内 定功

檜山 金平

関岡 尚志

橘川 武紹

安原 光政

山村 正心

仁科 信敬

第1章 県行政区画

副獄司兼
書記

丁長

同

牢医

守卒

同

租税課

租税課

長 知一

古田 元詮

八坂 権六

平田 昭利

村山 伯元

山崎 嘉秀

小川 元吉

宮本 重興

大庭 永章

飯塚 冬胤

西脇 時治

佐々木安綱

中村 綱亮

林 盛安

大趣 直温

本庄 直養

伊藤 正誼

水野 正連

出納課

地券掛

地券掛付属
但勤中等外二等格

雇筆生

葦山支庁詰

大属

当分本県詰

小松 通時

市川 英俊

鈴木 庄吉

福住 英勇

青柳 政浮

川添 久重

吉田 政定

開田 邦光

小牧 克房

渡辺 勝

六人

六人

六十四人

齋藤 忠貞

大山 有信

権大属

篠崎胤景

同 四等出仕

岩下基義

十一等出仕

池田春唯
内藤光忠
玉井政春
本間秀俣

但副獄司兼
書記心得
准仕丁

橋本信次郎

十二等出仕

前田甲龍

典事
東京出張所詰

山下三造

十四等出仕

木村真徳

権大属

根本公直

十五等出仕

山田広業
木村光正
萩原敬直

少属

柳川信弼

等外一等出仕

安間潔

十三等出仕

馬場克徳

同 三等出仕

八田公道

十五等出仕

雨宮中平
開田邦光

第1章 県行政区画

等外二等出仕

内田 利器

月給四拾両充

大属

斎藤 忠貞

鮫島 時敏

宮本 重興

大井田義路

吉野 直興

右

奏任官 二人

大山 有信

判任官 四十八人 内訳官 一人

篠崎 胤景

等外 十六人

十等出仕

吉田 政定

此月給

月給四拾充

寺崎 正常

総計金千七百七拾七円

権大属

一ケ年

月給三拾両充

柳川 信弼

総計金貳万三千三百三拾五円

池田 春唯

(二)

典事

内藤 光忠

月給七拾両

根本 公直

大庭 永章

権典事

関 重磨

月給五拾両充

石原 重庸

玉井 政春

平松 保雄

十一等出仕

鈴木 庄吉

月給三十兩充

飯塚 冬胤

本間 秀俣

前田 甲竜

少属

月給貳拾五兩充

佐野川成誠

馬場 克徳

小川 清

西脇 時治

北村 快藏

佐々木安綱

中村 綱亮

寺内 定功

林 盛安

大趣 直温

十二等出仕

月給貳拾五兩充

木村 真徳

十三等出仕

月給貳拾兩充

開田 邦光

雨宮 真道

月給拾五兩充

十四等出仕

関岡 尚志

水野 正連

青柳 政浮

村 正光木

山田 広業

萩原 敬直

十五等出仕

橋川 武紹

川添 久重

二等訳官

西 涉

等外

一等

市川 口吉

内田 利兵

佐賀 善政

吉田 織三郎

〔三好 弘〕

月給八兩充

月給六兩宛

總計千三百六拾八兩

〔内〕^(朱書)五拾兩 訳官

百七拾兩 典事三人

差引

金千百四八兩

(柏木俊孝氏藏)

□等

渡辺 栄英

雨宮 貞幹

鮫島 時敏

山村 正心

大井田義路

渡辺 勝

小沢 正雄

四等

民夫々可引渡候旨相達候事

明治九年四月十八日

太政大臣 三条実美

旧足柄県管轄相模国分土地人民本日神奈川県江引渡相濟候条各区毎戸無洩様可及通知候此段相達候也

九年五月一日

旧足柄県令 柏木忠俊印

旧足柄県下相模国村々本県所轄被仰出候ニ付而者本日旧県ヨリ土地人民請取相濟候条自今諸願届ケ等当分小田原駅出張官員江差出可此旨布達候事

但シ御用手続及是迄各区ニ於テ取扱来候事務ハ当分従前之通り可相心得候事

九年五月一日

神奈川県権令 野村 靖印

旧足柄県下一二三大区之儀自今一大区ヲ廿一大区トシ順次廿二廿三大区ト改称候条此旨相達候事

但シ

小区之儀者従前之通り

明治九年五月一日

神奈川県権令 野村 靖印

六 足柄県廃止に関する行政関係書類

足柄 県

其県被廢伊豆国ヲ静岡県江相模国ノ分ハ神奈川県へ被併候条土地人

前書之通御達有之候条御通知申上候也

立会人

里長

拾人長

御中

(瀬戸 格氏藏)

(注) 小室正朗氏所藏資料に同様のものがある。

七 足柄県廃止等に関する県令 柏木忠俊宛

書簡

本月廿三日御認足柄県御廢一条ニ付云々并ニ同廿五日御認城多先生御身分上之義ニ付云々被仰越候御書状共入掌拜読仕候然者右廢県一条所謂灯台元暗しとやら御書状にて始めて拜承仕候程之次第甚不都合千万尤御状拜見仕候間政府之御様子等承り度早速伊藤工部卿宅へ罷出候処御不在ニ付尚又参上拝顔仕其節城多先生等之義承り候処未其辺者何とも極り居不申候旨被申聞候間何分宜敷相願候段申上置候処廿五日付にて城多先生一件委敷御申越被下候間尚又伊東卿^(イヱ)へ罷越候処横浜行にて不在依テ其後ハ内務卿御宅へ罷出候処是亦折悪敷御不在ニ付廿九日ハ内務省へ押掛拜顔者仕候得共諸県之官員と相見へ

多人数同席ニ付御別席相願候処然者今日者無扨急御用向有之候間明三十日午前第六時半迄ニ宅へ可罷出旨被申聞候間則今朝御宅へ罷出御状之意味を以豆州人民内願之趣段々申上候処何分只今之処ニテハ豆州人民之内願を聞届かたき条々有之趣段々被仰聞其内ニ者品々同卿被仰聞候義も有之候得共何分拙文ニ者意味認兼候間此ヨリ直ニ川村大輔宅へ参り二日之暇をもらひ明日一寸小田原迄罷出委細申上候様可仕と奉存候間左様御承引之程奉願候尤奉公人之事故方一川村大輔方ニ差支有之候節者無扨次第ニ候得共多分右様之義も有之間敷と奉存候間先ツ大輔方へ出掛ケ願見方々一不行届節ハ無余義次第ニ付其節者尚又書状にて申上候様可仕と奉存候右者早々御返書可奉差上之処前文之次第にて何分急ニ御返事仕かたく夫故御報大延引と相成候段平ニ御仁免奉願候恐々頓首

四月三十日

肥田拜

柏木様

二白内藤君御一条頼承り御心中之程実ニ奉恐察候過日も申上候通只々御身之上御大切被成下候様呉々も奉希候

一 生産会社一条御書状之趣拜承委細城多先生へ申上置候間御同人より御承知之事と奉存候是も何レ明日拜顔尚委敷可申上奉存候

啓上仕候然者一昨日者參上御妨仕恐縮之至り御座候扱今早朝大久保
卿御宅へ罷越拙子申上候ニ者仰之趣委細柏木旧県令へ申聞候処豆州

恐々頓首
五月四日

丈ケ之処ハ仮令不被仰付候とも如何様ニも尽力可仕之処まして仰之

柏木様

肥田浜五郎

次第も有之候上者尚更之事ニ付葦山役所等より此迄之通り其儘御差

置被成候得者決テそうどう等無之様御請合申上候間呉々も御安心可

被成下候と拍木旧令被申候旨申上候処大久保卿被仰聞候ニ者夫者誠

ニ仕合之事大安心仕候と被仰聞候間又私申上候ニ者扱外ニ柏木旧令

願筋有之右者別義ニも無之城多氏身上之義何卒何レへか御遣方相成

候様奉願度候と之義ニ御座候と申上候処其義ハかん急之程者難約候

得共急度其内何んとか可仕と被仰聞候私勘考仕候ニ大久保位之男如

此申候上ハまさかうそニ者有之間敷と奉存候間先ツ此義も御安心ニ

て可然と奉存候其他相州之事も能々申上候処別ニケ様ニ可仕と申御

返事者無之候得共十分はらニ入候様相見へ申候間左様御承引可被下

候
一 静岡県令へ之書状并ニ葦山役所も其儘可差置旨等可申遣旨同卿

被仰聞候此段も御安心可被下候

五月十六日

一 金子之義ハ明日仁田君ニ御渡可申と存候乍併御同人今以御宅へ

御出無之候得共明日迄ニ者必御出府之事と存候

一 城多先生へ宜敷奉願候右申上度

一 豆州之方少々行違ひの義出来候旨被仰越甚心痛仕候御状之趣者
何レ其内内務卿へ御内聞申上置候様可仕と奉存候左様御承引可被
下候

一 先頃迄小田原ニ御奉公仕候以前之門番ナル佐助義昨今拙子宅江
參り是非とも葦山表へ罷越尚御奉公奉願度候間御上へナリ貴所様
御宅へナリ又ハ御役所之方へナリ御召遣ひ被下度候間拙子より其
段貴所様迄相頼呉候様申出候ニ付相叶候義ニ御座候ハ、何とか御
遣方之義私をゐても奉願候義ニ御座候
右奉申上度御報旁 恐々頓首

(肥田浜五郎)

(柏木俊孝氏藏)

ハ 旧足柄県令柏木忠俊にたいする小田原

住民の惜別の辞(一三)

(一)

曩キニ庶藩置県ニ際シ僕ノ旧君大久保氏ノ長ク東都ニ帰セントスルニ当テヤ僕時ニ幼ナリト雖モ衷情離別ニ堪ヘザル所アリ況ンヤ垂白大人多年ノ眷遇ヲ蒙ル者ニ於テヤ知ル可キナリ一藩悽然恰モ孝子ノ慈母ヲ喪フガ如ク彷徨慘然意染マズ然ルニ乍チ閣下ノ来テ新県ヲ治ルニ及テ前ノ悽然漸ク變ジ再ビ慈母ノ蘇スルガ如ク歓喜踴躍霖雨ノ始テ霽天ニ變スルノ思ヒヲ為シタリ且ツ閣下ノ下ヲ御スル仁恕衆ヲ待スル礼讓是ヲ以テ数年来風俗正ニ帰シ一県大ニ開明ニ趣ク如斯キ所以ノ者ハ皆閣下ノ賜ナリ嗚呼閣下ノ今此ノ県ヲ去ラントスルヤ一県ノ哀慟前ノ旧君ノ離別ニ異ラザル僕ノ言ヲ待タズ抑僕不肖幸ニ化育ノ仁ヲ被リ其ノ恩ノ大ナル疎賤ノ能ク報ル所ニ非ズ加ルニ今小学ヲ卒業スルヲ以テ亦復閣下ノ加賞ヲ受ケ感激奚ソゾ之ニ堪シ故ニ閣下ノ去ルニ於テ悲ムノ余此言ヲ書シテ以テ奉別シ且ツ恩顧ノ賜ヲ謝ス 再拜頓首

明治丙子六月八日

目良富有

植田重英

柏木公閣下

恭奉送

(二)

足柄県令公執事序

数十万人ノ上ニ位シ十郡ノ地ヲ統轄シ喜ヘハ賞アリ怒レハ罰アリ丈夫此ノ如クナレハ又榮ト謂ツヘシ然シテ此榮ヤ徒ニ僥倖ヲ以テ致スヘカラス必スヤ業身ニ修リ素行天下ニ信セラル、者ニ非レハ能ハズ 執事伊豆ノ鄙ヨリ起リ百度維新ノ時ニ際シ豆相兩州ノ士民ヲ鼓舞シ駿々乎トシテ開化ニ趨カシメ吾曹小子又其余沢ヲ以テ僅ニ文字ヲ知ルヲ得ル者皆 執事ノ賜也其十郡士民ノ上ニ位シテ恥ル処ナク十郡ノ士民モ又其下風ニ立テ敢テ異議ナキ所以也是豈業身ニ修リ素行天下ニ信セサル者ニ非スヤ 執事今將ニ去ントス故一言其徳ヲ頌シテ小子輩他日成立執事ノ如クナラント欲スル情ヲ陳スル而已

明治九年五月

第一百番公立小学校

学習舎

上等六級生

佐々木国太郎(印)
当子五月十三年一ヶ月

恭奉送

足柄県令公執事序

凡人民ノ貴重スベキ者豈實際ノ学ニ非スヤ昔時北条上杉両氏人ノ子弟ヲ殺シ国ノ資力ヲ尽シ寸擧尺奪以テ争フ処ノ土地人民 執事一旦是ニ臨ミ其人望ヲ得テ十郡ノ人民帰仰シテ其指令ヲ奉スル所以ノ者何ゾヤ豈其学業夙ニ修リ信義天下ニ顕ハルヽヲ以テニ非ズヤ吾曹小子是ニ於テ亦大ニ感スル処アリ則其一方ニ割拠シテ僅ニ数世ニ伝フルノ榮ノ如キハ誠ニ實際ノ学ニ如カザルヲ知レリ 執事今將ニ去ラントス故ニ一言其徳ヲ頌シテ以テ聊欽慕ノ情ヲ述ル而已

明治九年五月

第一百十番公立小学校

学習舎

上等小学第六級生

大房伊之助(印)

当子五月十四年五ヶ月

(三)

旧令公ノ郷帰ルヲ送ル文

旧足柄令公ノ入興以來年ヲ経ルコト数歳ニシテ徳沢下ニ普ク県下ノ

人民其徳ニ浴セサル者ナシ如何トナレハ僻境寒地ト雖偏ク学校ヲ設ケ無智文盲ノ兒童ヲシテ化シテ学ニ従事セシムルハ公ノ力ニ非スヤ予カ如キモ即チ其一ナリ然レトモ我性頑愚ニシテ其徳ヲ表スルノ力ナク空シク学ニ従事スルノミ今ヤ廃県ノ令下リ公職ヲ解キ故郷ニ帰ルト然ラハ即チ何レノ時カ厚恩ヲ謝スベシト涕泣シテ以テ寸志ヲ表ス

河野寿て

旧令公郷ニ帰ルヲ送ル文

公ノ入興以降管下ノ人民徳沢ニ浴シ漸々開化ノ地位ニ進マントス然ルニ廃県ノ令下リ神奈川県ニ合併セラル故ニ公職ヲ解キ郷ニ帰ルト予ノ如キ小童ト雖モ離別ノ情余リアツテ日夜悲歎ニタヘス故ニ記シテ以テ妾カ志ヲ述フ之ヲ考フレハ此ノ文ヲ作ルモ公ノ力ナリ如何トナレハ教師ノ丹精ハ言ヲ待タズ其因テ起ル処ハ公ノ尽力ニシテ学校ノ設ケ有ルニ依ル故ニ其厚恩謝スルニ語ナシ然レトモ余カ如キ女兒ノ赤心ハ業ヲ励シ旧令公ノ厚恩ヲ千歳辱カシメサランコトヲ唯神魂ニ停ムルノミ仰キ願クハ炎時ノ旅行恚ナカラシコトヲ

角田計以

旧令公ノ郷ニ帰ルヲ送ル文

余聞ク旧足柄県令柏木公廢県ノ令下リ職ヲ解キ当地ヲ去テ帰国セラ
 ルト妾等悲泣ニ堪ヘス抑公始メハ庶人ヨリ起リ遂ニ県令ノ高位ニ昇
 リ当国ニ入興セラレ昼夜職務ニ罷勉シ数年ナラスシテ道路大ニ開ケ
 行人ヲシテ便利ナラシム唯惜ムラクハ函嶺ノ峻岨ヲシテ公ノ着目ノ
 如ク平坦ナラシメスシテ職ヲ解カル、ヲ又学校ニ至リテハ僻邑寒地
 ト雖モ偏ク設ケ有ラサルハナシ之ニ数年ヲ加セハ邑ニ不学ノ戸ナク
 家ニ不学ノ人ナキニ至ラン此皆公ノ力ニ非スヤ且民ヲ撫スルニ恩威
 ヲ以テス故ニ人民能ク服従スルコト子ノ父母ニ服従スルカ如シ廢県
 ノ命ヲ聞ヤ悲歎セサル者ナシ一旦悽然トシテ道路声ナキノ地位ニ至
 ル妾力如キ小女子ト雖モ公ノ厚德ヲ浴シ上等生徒ノ後ヘニ従フ何ソ
 悲哀セサルヲ得ンヤ

関 由宇

旧令公ノ郷ニ帰ルヲ送ル文

謹テ書ヲ旧足柄県令柏木公ニ奉ル先キニ置県ノトキ公ノ職ヲ吾方県
 ニ奉ゼシヨリ孜々勉励日夜暇アラズ其ノ管民ヲ教フル菑ニ懇ナル而
 己ナラズ民モ亦皆ナ能ク公ニ服事ス実ニ司命ノ名ヲ辱シメズト謂フ
 ペシ今明治九年四月ニ至リ廢県ノ命下リ職ヲ解キ將ニ郷ニ帰ラント

ス管下ノ民之レヲ聞キ茫々然タルコト恰モ父母ヲ喪スルガ如シ然レ
 トモ己ムコトヲ得ザルモノナリ故ニ別レニ臨ンテ拙文ヲ綴リ聊カ以
 テ愚意ヲ呈ス

小川勢以

旧令公ノ郷歸スルヲ送ル文

旧足柄県令柏木忠俊公生質温良ニシテ治民ニ長ス入県以來職務ニ勉
 勵セラレ公ノ民ヲ視ルコト子ヲ視ルカ如ク民ノ公ヲ慕フコト猶子ノ
 慈母ヲ慕フカ如シ今ヤ僻邑寒村ニ至ルマテ偏ク学校ノ設ケアラサル
 ナキハ是レ公ノ力ナラスヤ妾等ノ如キ無智ノ小童ト雖公ノ徳沢ヲ蒙
 リ此校ニ在テ此級ニ昇ル豈喜悅セサルヘケンヤ然ルニ明治九年四月
 廢県ノ令下リ公職ヲ解キ郷ニ帰ト聞キ茫々然トシテ日夜悲歎ス然レ
 トモ天命如何トモスルコトナシト思ヒテ改メ拙文ヲ作テ以テ公ニ奉
 ル

二見氣武

(柏木俊孝氏藏)

九 足柄県再興建白書

足柄県再興建白書

謹テ元老院議長閣下ニ白ス惟フニ維新以来内外ノ政務常ニ多端国庫歳ヲ逐テ漸ク不足ヲ告ク故ヲ以テ曩者頻リニ諸県ヲ廢合シテ大ニ政費ヲ省略シ尋テ地方税ノ法ヲ制定セラルル当時世上之ヲ議スル者アリト雖トモ今日ノ事跡ニ由テ之ヲ觀レハ其措置概ネ皆宜キヲ得タリト為ス然リト雖トモ當時県ヲ廢合スル前後數十廟議其初メニ當テ予メ其利害ヲ攻究スル必スヤ深遠ニシテ敢テ精密ヲ欠ク万其理ナキモ凡ソ施為ノ後ニ至テ始メテ其利害ヲ詳ニシ由テ以テ其失ヲ知ルモノ世事往々免レサル所況ンヤ数十県ノ廢合ヲ行フ其事端數ヘ難ク其關係窮リナキニ於テオヤ其今日ニ於テ当初想及セサル一二ノ事實ヲ見ル此レ固ヨリ計画ノ罪ト謂フ可ラサルナリ今生等敢テ僭越ノ咎ヲ顧スシテ管見ヲ具陳セント欲スル所ノ者ハ他ナシ足柄廢県ノ後生等親シク見聞スル所ニ就テ其利害ヲ直言シ以テ政府ノ明察ヲ煩ハサント願フ其綱領ニ曰ク足柄県ヲ廢シテ伊豆ヲ静岡県ニ併スヤ之ヲ其施行以後ノ景状ニ徴スルニ地勢民情一モ其可ヲ見ス賦課重クシテ其利薄ク国力漸ク衰耗ニ趨クノ勢アリ之ヲ救済スルハ足柄県ヲ再興スルノ利便アルニ若カス足柄県ヲ再興スルハ神奈川静岡ノ県治ニ害ナク国庫ノ歳出ヲ増ス亦巨額ナラス此レ上乘ノ計ト為ス所以ナリ請フ願クハ事實ニ就テ之ヲ詳カニセン夫レ伊豆ノ国タル東北相模ノ境界ヨリ遠ク南海ニ斗出シ地勢孤絶人情自ラ亦隣國ト殊ナル所アリ今其県治ノ

沿革ヲ按スルニ維新ノ始メ政府特ニ韭山県ヲ立テ専ラ之ヲ治メシメ尋テ明治四年足柄県ヲ置カレテヨリ相州六郡ト県治ヲ共ニスル前後六年明治九年ニ至テ政府令シテ足柄県ヲ廢シ伊豆ヲ静岡県ニ併セ相州六郡ヲ神奈川県ニ付ス是ヨリ先伊豆ノ足柄県ニ屬スルヤ韭山ニ支庁アリテ國民其便ヲ悦ヒ県治漸ク人心ニ入テ上下和合人々初メテ公共ノ事業ニ力ヲ致スノ志アリ或ハ旧道ヲ補理シ或ハ新路ヲ開鑿シ國中稍運輸ノ便ヲ得テ殖産ノ事業除々興起ノ兆アリ既ニシテ静岡県ニ屬シ幾モアラスシテ府県會ノ創立ヨリ府県政務ノ經費ハ地方税ヲ以テ支弁スルノ制トナリ警察監獄土木教育衛生等ノ事務連年其目ヲ加ヘ一ニ皆其費用ヲ地方税ニ取り治水費ノ如キモ亦其負担ニ歸ス夫レ静岡県ニハ有名ナル大井天龍安倍富士ノ四大河アリ其暴漲ノ害古ヨリ防クニ術ナシト稱ス故ニ静岡県會毎歲議決スル所ノ地方税金額五分ノ一強ハ必ス土木費ニ屬シ而シテ其十分ノ八ハ即チ実ニ四大河ノ消靡スル所トナリ其剩余ノ二分ヲ以テ管内四十余里ノ国道ト六十有餘ノ川流トニ充ツ然リ而シテ特ニ伊豆一國ニ就テ之ヲ言フトキハ土木費トシテ豆ニ分チ与ヘラル、所ハ即チ全県土木費ノ中豆ヨリ支給スル金額ノ十分一ニ過キス其十分ノ九ハ即チ豆ニ課テシ以テ駿遠ニ用キラル毎歲必ラス如此ニシテ時ニ或ハ尚ホ此ニヌラ至ラサルコトアリ是ヲ以テ到ル処国道崩壊ニ趨キ堤防頽敗ヲ告ケテ行旅日ニ妨ケ

ラレ田圃月ニ荒蕪ニ属スルモ人民力及ハスシテ徒ラニ傍觀スルノミ
 目前焦眉ノ急スラ尚ホ且ツ顧ルニ違アラサルコト如此矣況ンヤ教育
 衛生ノ事運輸ノ便ヲ図ルノ土木等都テ永遠ノ計ニ属スルノ類オヤ其
 既ニ緒ニ就ク者今ハ則チ悉ク日ヲ逐テ衰滅ニ垂ントス自然ノ勢怪ム
 ニ足ラスト雖トモ亦此レ痛惜ノ至ナラス乎目下豆国ノ景状深ク憂フ
 ヘキコト実ニ如此矣而シテ其病源ヲ尋ヌレハ則チ駿遠ト經濟ヲ共ニ
 シテ常ニ他ヲ補ヒ反テ自營ノ道ヲ欠クニ在ルノミ蓋シ伊豆ノ地形山
 多クシテ耕地甚タ少ク村落多クハ山間若クハ海岸ニ散在シ人民概ネ
 山海ニ入テ力役ス其生計ノ艱他郷ノ比ニ非サルナリ然リト雖トモ豆
 国素ト富源乏シトセス唯目下之ヲ開クニ由ナキノミ若シ幸ニシテ善
 隣ト治ヲ共ニシ当初歲計ノ不足時ニ或ハ其補助ヲ得加フルニ人民ノ
 勤儉ト勉力トヲ以テセハ其富実期シテ待ツヘシ豆国ヲ遇スルノ道ハ
 須ラク此ノ如クナルヘシ今ハ則チ其法ヲ顛倒シテ外他郷歲計ノ不足
 ヲ補ハシメ内自ラ營養ノ資ニ乏カラシム此レ坐シテ豆国ノ衰滅ヲ待
 ツノ道ニ非ス乎豆国ノ病源索メ得テ既ニ明カナリ其患隣裡ノ淺キニ
 在ラス之ヲ斃スル一時ヲ補フノ姑息法何ノ能クセン唯タ宜ク截斷ノ
 術ヲ施スヘキナリ所謂ル截斷ノ術トハ何ソヤ他ナシ伊豆ヲ静岡県ヨ
 リ分割スル是ナリ聞ク豆国ノ人民頃日頻リニ静岡県ヨリ分離セント
 欲シテ其念尤モ急切既ニ政府ニ向テ神奈川県へ転管ノ事ヲ建白シタ

リト生等窃ニ豆国ノ為ニ分離ノ万已ム可ラサルコトヲ觀察シテ之ニ
 処スルノ方法ヲ按スル既ニ久ク遂ニ足柄県ヲ再興スルノ害ナクシテ
 利便多キニ如クハナシト信セリ若夫神奈川県へ転管ノ事ハ生等能ク
 其至情ニ出ツルヲ識ルト雖トモ亦其勢ノ甚タ不可ニシテ廟議必ス之
 ヲ容レサルヲ知レリ何トナレハ現時神奈川県ノ管轄武相兩國ニ亘リ
 広袤数十里且ツ外交ニ関スルノ事務特ニ緊急ニシテ県治自ラ内ニ專
 ラナルコトヲ得サレハナリ今ヤ豆国ノ興廢ハ主トシテ駿遠ト經濟ヲ
 共ニスルト否ラサルトニ係リ既ニ分離ノ事ヲ決スレハ乃チ善後ノ計
 ヲ定メサル可ラス之ヲ獨立ノ一県ト為サン乎國小ニシテ民力堪フ可
 ラス之ヲ神奈川県ニ併ス其不可ナル智者ヲ待テ後ニ知ラス然ラハ則
 チ足柄県ノ再興ヲ外ニシテ他ニ豆国ヲ救済スルノ道ナキカ如シ請フ
 此ヨリ以下足柄県再興ノ利便多キコト民力一県ヲ興スニ足ルコト神
 奈川静岡ノ県治ニ害ナキコト及ヒ国庫ノ支出ヲ仰ク巨額ナラサルコ
 トヲ弁セン凡ソ一県ヲ画定スル須ラク人心ノ向背ヲ察シ地勢風俗民
 情ノ宜キニ從ヒ以テ其便益ヲ図ルヘキノミ今相州數郡ト伊豆トヲ合
 シテ足柄県ノ再興ヲ計ルヤ豆民建白ノ旨意未タ茲ニ出テスト雖トモ
 此レ自ラ憚テ之ヲ言ハサルノミ滿腔ノ熱望凝テ此一点ニ集マレリ加
 旃往時一タヒ県治ヲ共ニセシ旧情ノアルアツテ將來扞格ノ患ナク相
 民ノ冀望亦以テ足レリ且ツ夫レ豆州ノ地勢遠ク南海ニ臨テ東シ一葦

ノ海水ヲ隔テ、相武ト相對シ朝發昏至舟楫ノ便猶ホ隣里ニ於ケルコトク薪炭石材魚介其他ノ諸産州民需用ノ外悉ク之ヲ相武ニ輪シ而シテ日用諸品ハ即チ一ニ皆此ニ仰ク因襲ノ久シキ其實易ノ閑繁頗ル親密ニシテ人情風俗自ラ亦相似タル所アリ独リ地勢ノ便否ニ至テ人或ハ函嶺ノ峻ヲ恐ルト雖トモ要スルニ封建ノ世嘗テ兵要ノ地ト為セシヨリ相伝ヘテ世人其峻ヲ称道スルノミ其実ハ即チ峻ト謂フニ足ラサルコト貨物ノ運搬曾テ便ヲ欠カサルヲ以テ知ルヘシ況ンヤ相ヨリ豆ニ入ル海辺ニ道アツテ車ヲ通スルニ足ルオヤ由是觀之豆相ヲ收束シテ一県ヲ作ス地勢風俗人情悉ク皆其宜キニ適フテ一モ其不可ヲ見ス正ニ此レ天然連合ノ形ヲ成スモノト謂テ可ナラン茲ニ於テ生等又其民力一県ヲ興スニ足ルヤ否ヲ觀ント欲シテ之ヲ最近ノ調査ニ質スニ一県獨立ノ經濟ヲ維持スル綽トシテ余裕アルヲ認メタリ蓋シ旧足柄

県ハ相州六郡ト豆州四郡(當時七嶋モ足柄ニ屬シタルトモ今之ヲ除ク)トヲ合セテ一県ヲ成シタレトモ之ヲ再興スルニ及ヒテハ高座郡ヲ神奈川県ニ取り駿東郡ヲ静岡県ニ取ルヲ可ト信ス權衡略ホ平ヲ得レハナリ今姑ラク高座ノ一郡ヲ加ヘテ之ヲ觀ルニ豆相合セテ一郡村數七百五十四村九駅四町戸數八万四千四百七十一戸人口四十五万零七百三十九人反別二万四千七百零三十二町九反五畝十二步地価一千七百八十四万四千七百九十一円十錢九厘地方税金十七万二千百一十四円三十八錢三厘アリ之

ヲ神奈川県現時ノ郡部ニ比較スレハ毎項概ネ其半ニ當レリ試ニ地方税ノ一項ヲ取テ之ヲ明カニセンニ明治十七年度神奈川県郡部地方税収入總額ハ金二十八万八千四百一十四円十三錢五厘ニシテ之ニ国庫下渡金前年度繰越金等ヲ加算シ合計金三十七万一千七百五十九円九十七錢四厘ヲ以テ金三十三万四千六百五十四円八十九錢六厘ノ同年度總經費額ヲ支弁シタルモノトス故ニ之ヲ標準トシテ以テ足柄県々治ノ予算ヲ立ツルニ其總經費額ハ金十六万七千三百二十七円四十四錢八厘ヲ以テ充分ト為ス而シテ之ヲ支弁スルニ前記地方税金十七万二千百一十四円三十八錢三厘ヲ以テス国庫下渡金等ヲ待タスシテ已ニ如此矣之ヲ要スルニ相州七郡ト豆州四郡トヲ以テ獨立ノ一県ヲ成ス小ハ則チ小ナリト雖トモ凡ソ県ヲ廢立スル何ソ必スシモ其大小ヲ論セシン苟モ一県特立ヲ要スルノ事由確實ニシテ他ニ便宜ノ道ナキ時ハ其小ヲ嫌ハスシテ之ヲ立テ獨立ヲ許スノ須要ナキモノハ大ト雖トモ輒チ廢合ヲ行フ此レ從來我政府ノ舉行スル所生等常ニ其公明ヲ稱嘆セシンハアラス今生等切ニ再興ヲ望ム所小県ナリト雖トモ其民力能ク獨立ノ經濟ヲ維持スルニ足レリ即チ知ルヘシ伊豆ヲ救済スルノ計茲ニ立テ存スルヲ既ニ此計ヲ決ス尚ホ顧慮スヘキモノハ即チ神奈川静岡ノ県治ニ大ナル妨害ヲ加フルヤ否ヤニ在リ生等ヲ以テ之ヲ觀レハ相州七郡ヲ割クハ神奈川県ノ經濟ニ激動ヲ加フルカ如シト雖トモ其

県治ノ眼目ハ蓋シ横浜ニ在テ最緊至要ノ時務悉ク之ニ係ル故ニ区部依然変状ヲ呈セサレハ郡部半ヲ割クモ其体面ヲ傷クルニ至ラサルコト生等深く信シテ疑ハサル所ナリ蓋シ神奈川県治ニ於ケル從來区部其重キヲ占ムルカ如クナルニ郡部亦方数十里ノ大アルヲ以テ世人其勢ノ傾向ヲ見或ハ之レカ説ヲ為シテ尾大掉ハサルノ弊アリト云フ者アリ生等遂カニ此説ヲ信セスト雖トモ將來外交日ニ益盛ナレハ事務從テ区部ニ繁ヲ加ヘ勢自ラ郡部ニ疎ナルナキヲ保チ難カラン歟但シ此レ固ヨリ未必ノ勢ニ屬シテ斷言スヘカラサルモ別ニ已ムヘカラサル事由アツテ郡部ヲ割カンニハ其神奈川県治ニ於ケル寧ロ利アルモ何ソ其レ害アランヤ静岡県ニ至テハ素ヨリ既ニ大ニ過クルノ嫌アリ駿遠ノ二国猶ホ小ナリトセス伊豆ヲ分割スルノ妨ケナキ智者ヲ俟テ後ニ知ラサルナリ以上生等既ニ数千言ヲ臚列シテ先ツ豆国ノ景状ヨリ足柄県再興ノ已ムヘカラサル所以ニ論及シ其利便ヲ説キ其民力ノ一斑ヲ示シ旁ラ隣県ノ經濟ニ於ケル利害ヲ弁シテ此ニ至レリ今將ニ筆ヲ閣カントスルニ臨テ敢テ又一言センコトヲ願フハ他ナシ国庫ノ支出ヲ仰クノ一事ニ関シテナリ方今府県ノ經濟ニ於ケル国庫ノ支出ヲ仰ク者ハ庁中費府知事県令以下吏員ノ俸給郡区长以下ノ給料旅費及ヒ警察ニ関スル国庫下渡金ノ數目トス此レ国庫ノ歳出ニ屬スルモノナリ今足柄県ヲ再興スルニ當テハ年々此數目ニ對シテ国庫ノ支

出ヲ仰カサルヲ得スト雖モ其此ニ増加スルモノハ必ス神奈川静岡ノ二県ニ於テ応分ノ減少ヲ見ルカ故ニ其増減ヲ算酌スレハ真ニ国庫ノ歳出ヲ増スハ蓋シ巨額ニ至ラサルヘキ歟生等私ニ之ヲ胸算スルニ約ネ二万円トスレハ必ス算余アラント信ス夫レ万余ノ金ハ私民視テ以テ巨額ト為スト雖トモ堂々タル政府ヲ以テスレハ正ニ是レ一縷ノ錢ノミ況ンヤ歳出ノ増加此ニ止テ而シテ其潤沢豆相ニ加ハリ道路之レカ為ニ開ケ殖産ノ事業因テ以テ興ラハ其利益実ニ鴻大ナルニ於テオヤ夫レ冗費ヲ省略スルハ急要ヲ舉ルノ道ニシテ我政府ノ夙ニ主義ト為ス所之ヲ儉徳ト謂フ唯財是レ愛惜スルモノト年ヲ同フシテ談スヘカラサルナリ近日政府益意ヲ此ニ用キ又大ニ政務ノ擴張ヲ計ラルト聞テ生等欣喜ニ堪ヘス且ツ窃ニ謂ラク是レ正ニ生等襟ヲ開テ誠意管見ヲ吐露スヘキ時機ナリト而シテ今生等建白スル所ノ計国庫ノ歳出ヲ増スヲ免レサルハ恰モ政費ヲ省略スルノ盛意ニ悖レルニ似タリト雖トモ生等敢テ之ヲ憚ラサル所以ノモノ誠ニ政府ノ主義儉ニ在テ急要ヲ舉ルニ財ヲ貴シトセス豆相五十万ノ人民ノ為ニ万余ノ金ヲ吝マサルコトヲ信スレハナリ生等故ニ曰ク足柄県ノ再興ハ豆相目下ノ急務ナリ願クハ政府速カニ事ヲ計ランコトヲ閣下若シ山海ノ心ヲ以テ生等カ言ノ粗朴ナルヲ咎メスシテ偏ニ獻芹ノ微衷ヲ採リ賜ハ、生等ノ幸福何ソ之ニ如カン 誠恐誠惶頓首頓首

人 口	戸 数	駅	村	町	地 方 税				
					合 計	雑 種 税	營 業 税	戸 数 割	地 租 割
三六五九六	六六二〇		八五		一三八二、七七七	八〇〇、八三五	一〇七三、三六六	一六三、八八〇	九九五、六六六
五五〇九〇	一〇一五〇	二	八四		二〇七〇、五四四	三三九八、二〇〇	五五三六、〇三三	二九四、六四〇	八八八、六三二
八三二七	一四二四三	二	一三三	一	三〇五四五、八三二	二七九、〇〇〇	四五四六、〇八一	四三九四、〇八〇	一八七六、六五〇
三〇五三	六〇一九		三七	一	一三三三、七五	一三四、三三〇	二二〇、五二五	一七九、六四〇	七三九、六八八
三九八一	五〇一一	三	二四		六六四三、五三三	八五〇、五五	一七九、二七〇	一四四三、八四〇	二五七、九四八
八〇七三	一四七〇五	一	一一		三二七四二、六〇〇	二七七、六四五	四一四四、八四一	四四八、〇八〇	二四〇四、〇三
五七九三	一〇九三三	一		一	二五九五八、五九九	二六〇、一四六	四五六九、四五五	四二〇九、三八	一五〇九、六七〇
八四〇五六	一六八一		二八一	一	三〇〇五、三六	五七三、二〇三	七三三、六五九	六三六、八五五	一〇九三、六九九
四五〇七三九	八四四七一	九	七五四	四	一七二二、三六三	一九八三、八二四	三三〇二七、二四〇	二五九〇、三三三 (マ)	九三六〇、九九六

(小田原市立図書館蔵)